BOOKS 本の紹介

『Ａｌａｓｋａアラスカ
極北・生命の地図』
星野道夫/著　朝日新聞社　1990

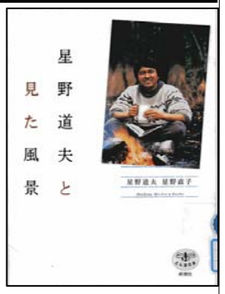
木村伊兵衛写真賞をとった『週刊朝日』の連載を元に出版された写真集。迫力ある動物達の写真と、美しいアラスカの原野が目の前に広がります。

『アラスカ　光と影』
星野道夫/著　福音館書店
1995

初めてのエッセイ集。
アラスカに惹かれていったきっかけ、そして憧れていた土地での様々な体験が、新鮮な感動で綴られています。1986年に六興出版から出版された本の新編集版。

『星野道夫と見た風景』
星野道夫・星野直子/著
新潮社　2005

出会ってから二人で、そして子どもが生まれ家族で過ごしてきた時間を、直子さんが写真とともに振り返ります。知られていない道夫さんの素顔が、直子さんの優しいまなざしを通して語られています。



『森へ』
（たくさんのふしぎ傑作集）
星野道夫/文・写真
福音館書店　1996

いくつか出版されている児童書の１つ。アラスカの苔むした森の朽ちていく姿が幻想的でなんとも美しい。

『森と氷河と鯨
ワタリガラスの伝説を求めて』
星野道夫/著　世界文化社　2006

クリンギット・インディアンとの運命的な出会いから、ワタリガラスの伝説を追い始めていた矢先、事故に逢い、遺作となってしまいました。写真＆エッセイ。

◆ ◆ ◆ 図書館からのお知らせ ◆ ◆

特集コーナーご案内

冷たい北風の季節です。暖かいお部屋でゆっくり読書でも、という皆さん。
図書館の特集コーナーで新たな本の発見をしてみませんか？

中央図書館
12月～2月「どうする!? どうなる!? 定年後の生活」
団塊の世代もそろそろ退職･･･。
第２の人生を考えるヒントとなる本を集めてみました。
◇　Young Adultコーナー（中学生・高校生向けコーナー）
～12月　「君は名探偵になれるか!?」
1月～3月「恋愛ってHappy？それともBlue？」
◇　こどもとしょかん
～12月　「クリスマス」
1月・2月「さがせ　さがせ　さがせ」

行徳図書館
～12月　「クリスマス＆正月」、1月・2月「筆を極める」
平田図書室
12月　　「クリスマス・正月」 1月～2月上旬「戦国時代」
◇　こども向け特集
12月「クリスマス」、1月「お正月・ぶた」、2月「元気な女の子」

クリスマスえほんの会

いつも図書館で行っている絵本やお話の会がちょっぴり冬のお楽しみ会になります！　ぜひご参加ください。

こどもとしょかん（中央図書館）
☆　らっこの会　３・４歳（親子）の方へ
12月22日（金）午前11時～
☆　えほんの会　4歳から小学生の方へ
12月21日（木）午後3時30分～
☆　おはなし会　5歳から小学生の方へ
12月20日（水）午後3時30分～
行徳図書館
☆　えほんの会　4歳から小学生の方へ
12月13日（水）午後2時30分～
☆　おはなし会　5歳から小学生の方へ
12月20日（水）午後2時30分～
南行徳図書館
☆　えほんの会　親子の方へ
12月21日（木）午後3時～
信篤図書館
☆　えほんの会　3歳から親子の方へ
12月8日(金)午後2時30分～

ご報告

◆　第13回中央図書館リサイクルブック市が開催されました。
11月11日(土)、中央図書館のリサイクルブック市が、市川図書館友の会との共催で、生涯学習センター2階グリーンスタジオにて開催されました。毎年ご好評をいただいておりますリサイクルブック市も今回で13回を数え、秋雨の降る悪天候にも関わらず、1,222人のご来場があり、準備した約2万2千冊の本も、7割方をお持ちいただきました。
また、会場でお願いいたしました図書館施設を充実させるための募金に、118,141円のご協力をいただきました。募金の使い道に関しては、図書館と友の会で協議の上決定いたします。ご協力ありがとうございました。

◆　祝日開館に関するアンケートを実施しました。
9月18日･9月23日･10月10日の3日間、図書館の祝日開館に関するアンケートを中央図書館内で実施いたしました。突然のお願いにも関わらず、たくさんの方にご回答いただきました。今後の運営の貴重な資料とさせていただきます。ありがとうございました。

使用している画像は使用許諾を得たものです。無断転載はできません。

URL<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/tosyo/tosmain.htm>

市川 図書館だより No.55

ICHIKAWA　LIBRARY

2006.12.1

発行：市川市中央図書館　編集：広報委員会　〒272-0015　市川市鬼高１－１－４　TEL. 047-320-3333

新サービス紹介
宅配サービス始めました！

予約した資料を受け取る方法として、図書館に出向かなくても、自宅で受け取ることができる宅配サービス（有料）を始めました。

着払い：市内１冊 300円から
○通常サイズの単行本であれば、市内350円以内で10冊ほど送ることができます。
※詳しくは下記の料金表をご覧ください。

宅配サービスご希望の方は、
●インターネット・携帯から予約する際に受取館で「宅配¥」をお選びください。
（事前にパスワード申請が必要です。）
●窓口でリクエストカードを出すときに「宅配希望」とお申し出ください。
（小学生以下は、保護者の同意を必要とします。）

○お届けの前に電話で料金と住所確認をさせていただきます。
○発送後のキャンセルはできません。
○ＣＤ・ビデオは貸出点数制限があるため、借りている資料が返却されるまでは、おことわりさせていただくことがあります。

○サイズの大きい資料（紙芝居・40ｃｍ以上の大型本）や、国立国会図書館からの借用資料、県立図書館・他の自治体図書館から借用した資料のうち、館内閲覧のものはご利用いただけません。
○着払い料金と引き換えにお受取りください。
○貸出し期間の延長はできません。

同一業者を利用すると同じ料金で返送できます。
○返送ご希望の場合は、届いた時の箱や封筒を必ず利用して梱包してください。
（返送の場合は**元払い**です。**往復とも利用者負担**となります。）
○返送する場合は、返却の期日までに中央図書館に届くようにお願いいたします。
○返却期限が過ぎると、インターネットからの予約が数日間できなくなる場合があります。あらかじめご了承ください。
○最寄りの図書館、図書館関連施設、返却ポストでもお返しいただけます。

☆詳細は、
市川市中央図書館
(047-320-3346)
までお問い合わせ下さい。

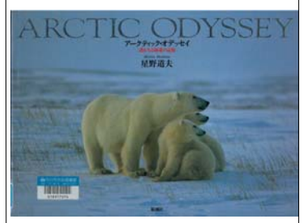
宅配サービス料金表	市川市内	市外（県内）	県外（関東）
35×25ｃｍ（パック）	300円	350円	400円
24×20×15ｃｍ（箱小）	350円	400円	450円
31×22.5×6.5ｃｍ（箱中）			
39×27.5×13ｃｍ（箱大）		450円	500円

目次：

新サービス紹介　1
宅配サービス
特集　星野道夫　2
星野直子氏　3
インタビュー
特集　星野道夫　3
星野道夫氏
プロフィール
特集　星野道夫　3
特別コレクション
特集　星野道夫　4
本の紹介
特集コーナーご案内　4
クリスマスえほんの会
ご報告　4
リサイクルブック市　他

TOPICS

今号は
星野道夫氏没後10年特集号です。
直子夫人に
インタビューしてきました。（2、3面）



『アークティック・
オデッセイ
遥かなる極北の記憶』
星野道夫/著　新潮社

使用している画像は使用許諾を得たものです。無断転載はできません。

アラスカを自然を そして人を愛した写真家 星野道夫

星野道夫さんが、カムチャツカ半島のヒグマによる事故で亡くなってから、10年…。
今もなお、たくさんの感動とやさしいメッセージを 写真や文章を通じて、私達に伝え続けてくれています。
そして、時が過ぎていくのと反比例するかのように、星野道夫さんを愛する人々の思いは、静かに広がっています。写真家、エッセイストとして、そして普段の星野さんとはどういった方だったのでしょうか？
直子夫人にお話を伺ってきました。

星野直子さん
1969年 東京都に生まれる。
1993年 道夫さんと結婚。
1994年 長男出産。
2000年 星野道夫事務所設立。
作品の管理を務める。

INTERVIEW 星野直子氏インタビュー

***―道夫さんとの出会い**についてお伺いしたいのですが。*

家族で行っていた教会の牧師の夫人が義姉だったんです。夫の姉の家族と実家の私の家族も親しくしていたので、ある日、弟がいるんだけど会ってみないかということで、紹介をしてもらって、その時初めて会いました。
17歳も違うというのは聞いていたんですが、歳よりもずっと若く見えました。撮影の時のこととか聞かせてもらい、とても目を輝やかせながら、本当に嬉しそうにいろんな話をしてくれました。第一印象は青年のようで、年の差は感じなくて、アラスカの話をたくさんしてくれたのがとても思い出に残っています。

―文章などから、とても穏やかな方だったのかなと感じるのですが…。

そうですね。本当に友達を大切にする人で、素朴であたたかい人でした。一緒に取材に行って、撮影が始まるまでは、普通に他愛のない話をしながら散策しているんですが、撮影が始まると、ちょっともう近づけないような気迫というか、息もしていないんじゃないかと思うほどでした。ジーッと被写体と向き合っていて、声もかけられなくて後ろで見守るしかできなくて。普段の様子からは分からなかったのですが、ああこうやって今まで写真を撮ってきたんだなあと改めて感じました。

***―撮影以外の道夫さんは、どんな休日**を過ごされていたんでしょうか？*

基本的にはアラスカにいて、12月の終わりから1月、2月に日本で打ち合わせなど、まとめて仕事をする時期に当てていました。結構忙しかったんですが、それ以外はお友達と会う約束をして、それをとても楽しみにしていました。
（二人では）映画を見に行ったり、甥や姪達と一緒にスキーに行ったりしたこともありました。

***―今でもアラスカには**行かれるのですか？*

家はそのままにしてあって、子どもの春休みと夏休みには、向こうに行って過ごしています。

使用している画像は使用許諾を得たものです。無断転載はできません。

***―撮影に同行されて、思い出に残っている写真**はありますか？*

94年に『アークティック・オデッセイ』という本が新潮社から出たのですが、そこには一緒に行った時の写真がいくつかあるので、とっても思い出深い写真集です。最初の一年間だけ、夏から行ったので実際には半年位だったんですけれども、北極圏にカリブーの写真撮影に連れて行ってもらったりですとか、アリューシャンの方に花やオットセイ、海鳥の写真を撮りに行ったり。あと、氷河の空撮や、熊の生息地に行って一緒にキャンプをしたりなど、たくさんの思い出があります。

―息子さんはどの写真がお好きですか？

保育園に行っている頃は、何故か鯨とオーロラの写真が大好きで…。この頃は、ホッキョクギツネの子ども達が遊んでいるような、かわいらしい動物のものが好きみたいですね。

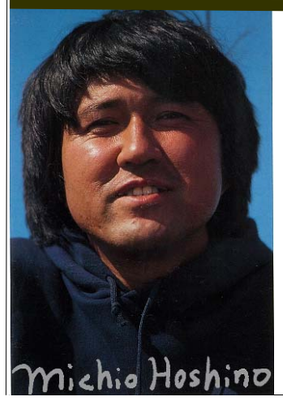
―ある時学生がアラスカでやっていきたいと、道夫さんにアドバイスを求めた時に、「そんなに簡単にはいかないよ。自分も今だに好きな仕事を見つけられないのだから」というようなことをおっしゃったと本**（『星野道夫　永遠のまなざし』山と渓谷社　2006）**で読んだのですが、ご本人は写真家のほかに何か目指していらっしゃるものがあったのでしょうか？

結婚する前に手紙を何通かもらった中で、仕事に対する思いを書いてくれたことがあったんですが、その時は、写真を撮ること、文章を書くことが自分の一生のテーマと書いていました。例えば自分がいい映画を見たり、いい音楽を聴いたり、本当にいいものに触れたりした時は元気になるので、自分の書いた文章や、写真を見てくれた方々が、なにかを感じてもらって元気になれるような、そんな仕事をしていくことが夢だと書いていました。

***―今後の写真展**などのご予定は。*

年末年始に札幌で（星野道夫写真展『星のような物語』を）開催するのですが、２年間かけて巡回する途中で、市川市でもできたらと思っています。

PROFILE 星野道夫氏プロフィール



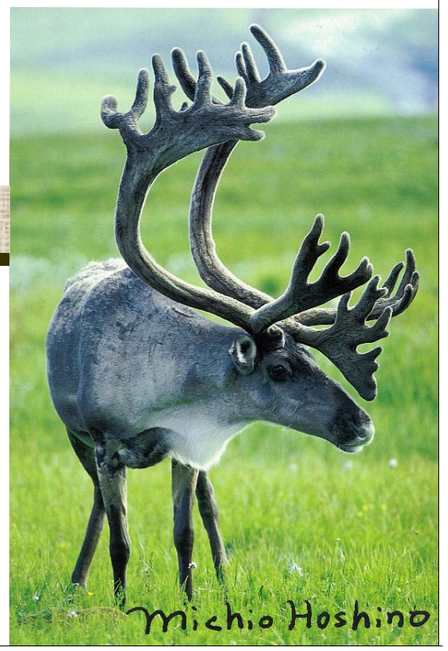
1952年 市川市に生まれる。
1973年 慶応義塾大学生の時、アラスカへ渡り、シシュマレフ村でひと夏を過ごす。
卒業後、動物写真家 田中光常氏の助手を2年間務める。
その後、アラスカ大学へ留学。アラスカの写真を撮り続ける。
1986年 第3回アニマ賞、受賞。
1990年 第15回木村伊兵衛写真賞、受賞。
1993年 直子さんと結婚。
1996年8月8日 ロシア、カムチャツカ半島クリル湖畔でヒグマの事故により急逝。

星野道夫特別コレクション

中央図書館には、星野道夫さんの写真集・エッセイのほかに、掲載雑誌や作品が掲載されている教科書など、関連する資料を集めたコーナーがあります。
もっと星野さんのことが知りたい！と思った方、ぜひお立ち寄り下さい。

―最後に、図書館だよりを見られる方に**メッセージ**がありましたらお願いします。

写真を見て下さった方や文章を読んで下さった方が、何かを感じて、そこから先その気持ちを育てていくのは、その方それぞれだと思うのですが、なにかそういうきっかけになれば嬉しいので、少しでも多くの方に作品を見ていただけたらと思っています。



使用している画像は使用許諾を得たものです。無断転載はできません。